

名 称：中心市街地に関する市民意見交換会

日 時：平成19年1月13日(土) 10:00～12:00

場 所：松江市市民活動センター 5階 交流ホール

.....

[ 自己紹介 ]

宍道でも同様の問題を抱えている。参考にしたい。

雑賀(相生)に住んでいる。空洞化。旧協議会のメンバー。

大手前のまちづくりが400年前とは変わり、壊されつつある。

南田町に住んでいる。殿町再開発、大橋川拡幅は大問題である。

高校まで松江に住んでいた。広島から帰って、建築の仕事をしている。

寺町に住んでいる。天神町・白潟町とも寂れている。

以前堀川めぐり検討に参加して以来、その時の議論は何だったんだろうと嘆いている。

作家の作品を扱う雑貨屋をしている。若者ものづくり団体のネットワークを通じて生の声を聞いてきている。大切にしなければならないものがあるのに、新しいものに走ってしまう傾向が強く、残念である。

浜佐田に住んでいる。400年のまちづくりを今後どう展開していくのか、良いものを子孫に残したい。

[ 意見交換 ]

タテ町商店街に昨年1年いた(昔は薬屋であった古い建物)。専門店があり魅力を感じた。

- ・ 他の商店街には家賃補助があるがそれがなく、でもやってやろうという気概で向かった。しかし、1年やって結果が出なかったので12月末に閉店。
- ・ 新しいことをやらなくともよい、静かに暮らしたい派と、都会の真似をしたがる活性化推進派との意識の違いを感じた。
- ・ 「還」は原点に還るの意。
- ・ ノスタルジックマーケットは2日間で7,000人の来客があった。
- ・ 歩行者天国とかではなく、古い建物と作家のコラボを狙ったが、古くからいる方とかみ合わなかった。
- ・ 今までやったことのないこと、新しいことを始めるのは大変。
- ・ 時代の流れを感じてもらいながらやればよかったかなとも思う。

以前は中心市街地への編入を希望されなかったが、今タテ町に新しい動きがある。「還」さんが残された功績は賞賛に値する。

- ・ たくさんたたかれたが、出る時に初めて気づいてくれた。
- ・ 観光客に聞いたが、松江には何も求めているいないそうだ。何もしない時間を過ごすのが良いとのこと。

なぜ活性化が必要なのか？（旧基本計画の最後に書いた。）温暖化、環境問題に対し、まちの構造・車社会・ライフスタイルを変えていくべき。安心して暮らせる、住みよいまちをつくっていくため。

- ・ 水と緑と共存する中心市街地。商・住接近、節度ある暮らしの中心市街地。車中心ではなく、人間優先のまちへ。

水と緑は第一テーマである。

タテ町について、まとまったことをいろいろやっていることは魅力、主張をもって頑張っているまち。

- ・ 南田町では、舟つきの松（遊んだが、聖域であった）が弱っている。市が管理してはいるが、貴重なもの。自動車の通行が原因であり、くにびき道路の次には北公園線の拡幅するなどもってのほか、反対する。
- ・ 屋敷は不昧公がお休みになった 10 畳の間が残る。屋敷・松・庭・水の 4 点セット、茶室より 10 畳の間が重要。
- ・ 柳田町？へ入る古い道がある。田町川が堀川遊覧の第 2 ラウンドになりうる。
- ・ 殿町再開発、お城のすぐ近くでダメ。観光客が、最近増えた中国からの観光客もがっかりする。リピーターにならない。
- ・ 「よそにないものが松江にある」ことが大事。

観光客ではなく、「住んでいる人」を主題において中心市街地の活性化を考えていかなければならない。市民がどれだけ松江の事を考えているのか。

- ・ 住んでいる人に比べて、観光客の滞在は短い。
- ・ 大手前の道路には興味がある。「武者隠し」など他にはないものがある。
- ・ 松江の良さ、「道幅の狭いスケール感」「まちの通り」が魅力。

生活文化を動態保存したい。

他力本願ではなく地元の人が本気で頑張っていて欲しい。元気を出して欲しい。

- ・ お寺の区画整理など、喧々諤々やった。（寺町）
- ・ 道路、駐車場の問題、市民病院の跡地利用、大橋川拡幅などどうするか。

自慢できるものが一つ、「道のまがれるはこれ堅城のしるしなり」。

- ・ 「絵図の世界」より、まちの構造、道の構造。堅城、兵法、風水が残っている。
- ・ まちの構造が残っている松江が良い、大きくなることが必ずしも良いものではない。
- ・ 道州制になれば、広島や岡山など大きなところが優先される。松江は準副都心か。
- ・ 風水的に先祖をまつる場所への再開発ビル建設など許せない。

住んでいる人が住みやすく、伝統と文化を守っている。人が来て穏やかにすごせる場所。

- ・ 生きっぷりが観光資源になる。

堀川遊覧船の航路の内側はいじらないで欲しい。

- ・ マンション問題が起きたとき、自分は一人だけ反対した。
- ・ 住民を増やすのに必要だと言われ、確かに住民は増えたが、その住民の顔が見えない。
- ・ 経済上、近隣の商店街へ与えた影響を知りたい。
- ・ ビル風については当初から懸念されたが、風向きが変わった。
- ・ 今後の建物建設でまたどうなっていくのか心配。

スーパーに人が増えたとは聞いたが、売上げについては教えていただけない。

堀川に下りる石段、面したたくさんの木が、駐車場になってしまった。

- ・ 母衣町が変わった。まちが乾いてきた。

再開発マンションに大手前で転出の人を入れようという時に、地元は入りたくないという希望。

- ・ やはり松江は観光でもっているまちだと思う。
- ・ 例えば奈良、人が暮らしている、職・商売が生きている。狭い通り、付き合い。
- ・ 東京を見てのまちづくりでは、広い道路ができる米子や出雲のようではダメ。

旧市内に 8F 以上のビルが約 70 棟、これでどれだけの人が増えたかは疑問？

- ・ 南殿町の 14F ビルは天守閣と同じ高さ、この影響、害はどのようなものか検討中。
- ・ 松江にふさわしい建物を！
- ・ 雑賀は前のまま、まちづくりの協議会ができた。昔のものを残し、歩いてまわってもらえるまち。

「住みやすいまちには人が来る」と前から感じていた。

- ・ 宍道への思いが強い。駅前の開発、定時制高校の平成 22 年開校、そんな中、住民は何ができるだろうか。

- ・ 歴史資料館について、「駐車場はありません、歩いてまわってもらいます。」とのこと。  
「えっ、大丈夫？」と思っていたが、駐車場云々ではない、これでいいのだと分かった。

「会」にはほっとしているが、行政には疑問を持っている。例えば高度利用（再開発）のこととか平気で言う。

これに対しては対策を考えている。

同感である。勇気付けられた。「まちが乾いてきた」、これを考えていけばよいのだと感じた。

「野に意見あり」、ここでも建設的な意見を伺えた。

- ・ 観光客に聞くと、もう一度来たいまち＝住んでいる人が生き生きしているまちであるという。
- ・ 変わって（開発）良くなるものはもうないのではないか。
- ・ 松江には古きがつくった「道筋」、歴史がある。今あるものを守り、「言っても無駄」という考えは捨てて欲しい。意見は言い続けないと。
- ・ 土木や建築に携わる人は、文化・人間性・営みをしっかり学んで欲しい。

今日のご意見には多くの方が同感している。